

ニュアル、分析カラム、標準品、試薬をひとまとめにし、分析キットとして配布することが確実な分析を実現する。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案

なし

3. その他

なし

表1 過去の事例で中毒の原因となる可能性のあった化合物

原凶物質	原凶物質	原凶物質	原凶物質	原凶物質
塩素	サリン	0-トルエンスルホン酸	ジアンジアミド	リン酸トリメチル
トルエン	ジカチン	0-ニトロクロロベンゼン	ジメチルジエチルホスフィン酸	亜硝酸メチル
塩化水素	ジシクロペンタンジエン	0-ニトロクロロエチルベンゼン	ジエチルメタジエチルホスフィン酸	一塩化砒素
クロロピクリン	テトラクロロエチレン	0-ニトロクロロエチルベンゼン	ジメチルアセトアミド	一塩化鉛
シクロロメタン	ネトラミン(殺菌剤)	0-ニトロクロロエチルベンゼン	ジメチルアミン	
硫酸	トレンジイソシアネート(TDI)	0-ニトロクロロエチルベンゼン	ジメチルジエチルホスフィン酸	塩化シアン
アンモニア	フェニトロチオン	VX	ジメチルチオエーテル	塩化ビニル
塩化水素	ヘプタン	α-ターナルアルコール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
アセトン	ホリスチレン	γ-ピコリン	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
キシレン	メソミル	アクリル酸エチル	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
クロロホルム	メチルメルカプタン	アクリル酸メチル	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
ジメチルスルホキシド	塩化亜鉛	アクリル酸ブチル	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
メタノール	次亜塩素酸ナトリウム	アクリル酸ヘキシル	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
過酸化水素	硝酸アンモニウム	アクリル酸オクチル	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
亜硝酸メチル	酢酸ビニル	アクリル酸ドデシル	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
エビクロヒドリン	無水マレイン酸	アセトニトリル	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
シアニ化水素	酢酸ブチル	アニリン	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
トリクロロエチレン	無水マレイン酸	アルキルアミン	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
ニトロベンゼン	1,3-ジクロロ-2-プロパノール	アルキルアミン	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
ハラチオン	1,3-ビス(β-チルベルオキシイソプロピル)ベンゼン	アルキルアミン	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
ミネラルスピリット	1,4-ボリブタジエン	アントラセン	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
水酸化ナトリウム	1-ブタノール	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
水酸化カリウム	2,2-アゾビスイソブチロニトリル	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
水酸化ナトリウム	2,2-アゾビスイソブチロニトリル	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
二酸化砒素	2,2-アゾビスイソブチロニトリル	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
アクリル酸	2,3,7,8-テトラクロロジベンゾ-p-ダイオキシン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
アクリロニトリル	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
ジオキシサン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
テトラヒドロフラン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
ナフタレン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
ホルムアルデヒド	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
メチルエチルケトン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
塩化ベンゼン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
過酸化ベンゾイル	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
二酸化水素	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
無水フタル酸	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
1,3-ブタジエン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
5-フルオロ-1,2,3-チアジアゾール(GCT)	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
NN-ジメチルアセトアミド	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
0-ニトロクロロベンゼン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
0-ニトロエチン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
0-ニトロフェネチル	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
アクリル酸メチル	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
アジ化トリウム	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
イソプロピルアルコール	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
エチルベンゼン	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
エチレンオキシド	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル
コールター	2,4-トリクロロ-5-ブチルメタキシレン	イソプロパノール	ジメチルチオエーテル	過酸化ベンゾイル

No	発生前	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
1	20060100	1	死亡1名	エチレングリコールモノブチルエーテル	自動車製造ラインの自動塗装工程において、ボデーに塗布する防錆塗料の成分調整を行うため、ボデーをドブ掛け塗装するためのエチレングリコールモノブチルエーテルの入った塗料槽の中に、添加剤を注ぎ入れる作業を行っていたところ、誤って塗料槽の中に転落したものの。
2	20060700	1	死亡1名	クロロホルム	医薬品原体の精製作業を事業主と被災労働者2名で行っていたが、屋内作業場から発せられる悪臭に近隣住民からの苦情が続いていたので、それに対処するために、窓や出入口を目張りし、排気装置も有効に移働させず、呼吸用保護具も着用しないまま作業したものの。作業員2名とも中毒による意識不明となった。
3	20060100	1	死亡1名	ジクロロメタン	偏光フィルムの製造工場におけるプラスチックフィルムにジクロロメタンと樹脂を塗布する設備の整備中に、ジクロロメタンを吸入したものの。搬送先で14日後に死亡した。
4	20060400	1	死亡1名	ジクロロメタン	塩化ビニール樹脂プラントにおいて、原料を混合する工程で使用される攪拌槽の掃除を行うため、攪拌槽の内部に作業員が独自の判断で防じんマスクを着用して入り、ジクロロメタンを使用して清掃作業を行っていたところ、同溶剤の蒸気を吸入し、ぐったりしているところを発見され、病院に救急搬送されたが、ジクロロメタン中毒で死亡した。
5	20070100	1	死亡1名	ジクロロメタン	ジクロロメタンを洗浄液に用いた逆流凝縮器付きの自動洗浄装置を用いて行っていた金属製品の洗浄作業において、洗浄液交換作業時に配管の詰まりが発生したため、配管のカップリングをはずしたところ洗浄液が漏れ出した。被災者は、有機ガス用防毒マスクを使用していなかったため、大量の有機溶剤蒸気を吸入し、急性有機溶剤中毒となった。
6	20061000	11	中毒11名	メチルエチルケトン	基板の金メッキのムラをメチルエチルケトンで拭き取るよう、当日急遽指示され、有機溶剤中毒防止対策のとられないままに作業したものの。
7	20061200	1	中毒1名	N,N-ジメチルアセトアミド	コンテナ洗浄作業において、N,N-ジメチルアセトアミドを使用しタンク内面の洗浄作業及びラッカーシンナーを使用しているタンク内面仕上げ作業を行っていた被災者が、タンク内の強制換気を行わず作業を行っていたものの。
8	20050700	1	中毒1名	アセトン	合成樹脂製造工場内において、エポキシ樹脂で汚れた床を清掃するため、被災者がアセトンを含ませたウエスを用いて床面の拭き取り作業を行っていたとき、アセトンを吸入したものの。当該作業時において、被災者は呼吸用保護具を着用していなかった。
9	20060100	1	中毒1名	アセトン	店内清掃作業中、陳列棚等にあった粘着シールのはがし跡をふき取るため、アセトン含有の除光液を染み込ませた布を使用していたところ、作業開始から約1時間後に気分が悪くなり、病院へ搬送された。
10	20061200	1	中毒1名	アセトン	通風が不十分な屋内作業場で有機溶剤(アセトン、ブチルセロソルブ)をウエスに染み込ませて印刷用スクリーン版の拭き取り作業を行っていた。有機則第2条の適用除外になると管理者が判断し、局所排気装置等の設置がなされておらず、防毒マスクの着用指示を受けてはいたが、防じんマスクを着用して作業を行ったものの。
11	20060400	1	中毒1名	アセトン	社内の安全担当部署の了解なく外注して行かせていた事務所内のフロア張替工事において、換気扇を稼働させながら、有機溶剤含有接着剤を床に塗布していたところ、室内に雨が入らないように窓の開放部分を小さくしたため、換気が悪くなったものの。
12	20060300	1	中毒1名	キシレン	始業から工場内出荷場において、作業員が、キシレンを含むラベル剥がし剤を使用しシール類を剥がす作業を、スプレー臭を漂わせないように自然換気で行っていたところ、同一作業場内で、半導体製品の出荷作業に従事していた者が急性有機溶剤中毒になったものの。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
13	20070800	1	中毒1名	キシレン	魚網用の防汚剤(キシレン60%含有)を用いて行う魚網の網染め作業において、呼吸用保護具を着用していなかったため、防汚剤から発散したキシレン蒸気を吸入し、有機溶剤中毒となった。
14	20060800	1	中毒1名	キシレン エチルベンゼン	乾燥機のバーナー部及び熱交換部の内部に、市内の取扱店から注文した耐熱塗料を塗る作業をしていたところ、有効な換気設備がなく、さらに適切な呼吸用保護具もなく、数分間作業をしたもの。
15	20070900	1	中毒1名	キシレン シクロヘキサノン	真空蒸溜連続回収装置において回収した再生液(キシレン及びシクロヘキサノン溶液)を回収タンクから缶に移し替える作業を行っていたところ、着用していた防毒マスクの破過時間を超えた吸収缶を使用していたため、有機溶剤を蒸気を吸入し、急性有機溶剤中毒となった。
16	20060400	1	中毒1名	クロロホルム	乾燥機室において、乾燥機に付着したリン脂質を除去するため、局所排気装置を作業開始時には稼働させず、被災者がクロロホルム(純度100%)を使用して手作業で防毒マスクを着用せずに乾燥機を洗浄していたところ、揮発したクロロホルムの蒸気を吸い込んだもの。
17	20070800	1	中毒1名	クロロホルム	化学薬品保管場所において、保管していたドラム缶から液が漏れていたため、他のドラム缶を移動させたところ、そのドラム缶が破損し、ドラム缶の中の液が漏れ、漏れた液から発生したクロロホルムガスを吸入し、クロロホルム中毒となった。
18	20060700	1	中毒1名	クロロホルム等	複写機・FAX機等の感光ドラムに有機溶剤(クロロホルム等)含有の混合溶媒の塗布、洗浄作業を行っていたところ、塗布槽フード、洗浄槽の制御風速が不十分で、局所排気装置のフードの中での乾燥が終わらないうちに、次の工程に移動させたり、塗布装置に近づく時だけ防毒マスクを着用していたもの。
19	20060800	1	中毒1名	クロロホルム等	複写機・FAX機等の試作・サンプル用の感光ドラムに有機溶剤(クロロホルム等)含有の混合溶媒を塗布する作業を、各塗布槽フード制御風速が不十分な状態で、有機溶剤の蒸気が発散が相当量あるにもかかわらず、作業時に防毒マスクは未着用でおこなったもの。有機溶剤蒸気を吸入し中毒になった。
20	20061200	1	中毒1名	ジクロロメタン	塗装前の製品を洗浄するための洗浄装置(逆流凝縮器付)の修理作業で、パッキンの締め付けの時、ねじが一緒に回らないように装置の内側から、ねじを押さえるため、被災者が装置の中に入って作業をしていたところ、送気マスクの備え付けがなく、着用していなかったため、装置の中に残っていたジクロロメタンの蒸気を吸い込み、中毒になった。
21	20050200	1	中毒1名	ジクロロメタン	浄水場改修工事において、沈殿タンク内の沈降槽内部で、被災者がジクロロメタンを主成分とする塗料剥離剤を用いて防水塗装の剥離作業中、剥離剤に含まれていた有機溶剤を吸入したもの。沈降槽内は換気が行われておらず、被災者は呼吸用保護具を着用していなかった。
22	20050400	1	中毒1名	ジクロロメタン	作業場内にて、内径1.11m、高さ1.115mの円筒状の真空装置部品の内壁の洗浄作業を被災者がジクロロメタンを主成分とする洗浄液を用いて行っていた際に、ジクロロメタンを吸入したもの。当該作業時において、被災者は呼吸用保護具を着用していなかった。また、当該事業主が被災者に対して有機溶剤に対する安全衛生教育を実施しておらず、当該作業に係る作業手順を示していなかった。
23	20050900	1	中毒1名	ジクロロメタン	塗装工場において、剥離剤を使用して航空機部品の塗装不具合箇所を剥離する作業を行っていた際に、剥離剤に含有されていたジクロロメタンを吸入して中毒を起こした。被災者は呼吸用保護具を着用していなかった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
24	20060400	1	中毒1名	ジクロロメタン	工場内の洗浄室において、バスケットに付着した塗料を取り除くべく、バスケットをジクロロメタン槽に浸透させた後、圧搾空気の吹付を行っていたところ、窓を閉じ、換気設備を設置しない状態で呼吸用保護具を着用せずに作業を行っていたため、ジクロロメタンを吸入して有機溶剤中毒になった。
25	20070600	1	中毒1名	テトラクロルエチレン	アルミニウム製コンデンサーケースの全自動洗浄装置の部品交換作業において、作業員の着用していた防毒マスクの吸収缶の破過時間が経過し、有機溶剤の蒸気を吸入し、有機溶剤中毒となった。
26	20070900	1	中毒1名	テトラクロルエチレン	航空機のめっき部品に有機溶剤を含有するマスクング剤でマスクングする作業において、マスクング剤のテトラクロルエチレン蒸気を吸入し、有機溶剤中毒となった。
27	20060300	1	中毒1名	トリクロルエチレン	金属部品の熱処理工程で、当部品をトリクロルエチレン洗浄装置(槽)にて脱脂洗浄後、筒底に残留したトリクロルエチレン等(5ml/個)を手作業にて取り除く作業を、局所排気装置等の有効な換気設備がなく、呼吸用保護具を着用せずに行っていたもの。病院で「全身性接触性皮膚炎・中毒症」との診断を受けた。
28	20070600	1	中毒1名	トリクロルエチレン	自動洗浄機の蒸留槽において、洗浄剤(トリクロルエチレン)の廃液を抜く作業をピット内で行ったところ、蒸留槽に充填していた溶剤の蒸気を吸い込んで有機溶剤中毒になった。なお、ピット内は全体換気装置で換気していたが、作業者は呼吸用保護具を使用していなかった。
29	20050700	1	中毒1名	トリクロルエチレン	洗浄装置を廃棄処分するため、装置内に入っていたトリクロルエチレンの抜き取り作業を行った後に、装置内にこぼれていた被洗浄物を拾い上げるため、被災者が装置内に入ったところ、装置内に残留していたトリクロルエチレンを吸入したもの。当該作業時、被災者は防毒マスクを着用していたが、装置内に入って数分で吸収缶が破過したものと推定される。
30	20050200	1	中毒1名	トルエン	工場内の塗布室において、被災者がトルエンと接着剤と硬化剤を調合した接着剤塗料を用いて作業を行っていた際に、トルエンを吸入したもの。当該作業時、被災者は呼吸用保護具を着用していたが、局所排気装置の制御風速が法定値以下であり、換気が不十分な状態にあった。
31	20051000	1	中毒1名	トルエン	建築工事現場の倉庫下の地下ポンプ室において、被災者がトルエンを含有する防水塗料を用いて床の防水塗装工事を行っていた際に、有機溶剤を吸入したもの。災害発生時において、被災者は呼吸用保護具を着用しておらず、当該作業場には換気装置は設置されていなかった。
32	20060200	1	中毒1名	トルエン	電子材料を製造中、圧力容器内で反応させた反応液をトルエンで洗浄、乾燥後、濾過器に残った結晶を大型スコップでポリ袋に取り出す作業のため、濾過器の蓋を開けたところ、流出したトルエンにばく露したもの。
33	20060300	1	中毒1名	トルエン	ウエットスーツ、つり用防寒具等を製造するに当たり、第二種有機溶剤を含有する接着剤等を用いた塗布作業や拭き取り作業を行っていたところ、急性トルエン中毒になったもの。
34	20060400	1	中毒1名	トルエン	航空機用ねじのネジを入れ有機溶剤(トルエン99.9%)により洗浄する作業を、防じんマスクを着用して朝から何回も繰返し行っていたところ、製品の品質管理上、埃が入らないように壁面のガラス戸を閉鎖し、洗浄作業用の換気設備も行わなかったもの。
35	20060500	1	中毒1名	トルエン	貨物船のバラスタック内において、被災者が防錆用の塗装作業を行うためタンク内に立ち上がったところ、着用していたエアラインマスクのホースがマンホールのボルトに引っかかり、それを直そうとマスクを外したところ、近傍で使用されていた塗料(主成分トルエン)により急性有機溶剤中毒になった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
36	20060500	1	中毒1名	トルエン	中古機械の洗浄作業に当たり、当初は屋外での作業を予定していたものの、やむをえず組立工場内において作業を行うこととした。機械の内側に入り扇風機を2台動かしながら防じん用簡易マスクを装着して、トルエンを使用して洗浄作業をしているときに、有機溶剤中毒になった。
37	20061100	1	中毒1名	トルエン	タンクの内壁に付着した油類の拭き取り作業のため、使用していたシンナーがタンクに残った状態のまま、換気装置もなく、有機ガス用防毒マスクを着用してタンク内に入り、ウエスで清掃作業を行ったところ、防毒マスクが破過し、シンナー中のトルエンを吸入したものの。
38	20070800	1	中毒1名	トルエン	前日に塗装を終了したコンテナ貨物船の船底部の海水用タンク内部において、海水を給排水させる部品を配管のフランジに取り付ける作業中、呼吸用保護具を使用していなかったため、気化したトルエン等を含有する有機溶剤ガスを吸入し、有機溶剤中毒となった。
39	20060900	1	中毒1名	トルエン	隣で営業する惣菜店の床工事が前日夜から当日朝にかけて行われたところ、当日朝店舗のカウンターの片付け等、開店準備を行っていたところ、途中から気分が悪くなって、病院で治療を受けた。
40	20070200	1	中毒1名	トルエン キシレン メタノール 酢酸ブチル	塗装場において、ガスポンペに錆止め液と着色料を吹き付け、換気設備が設置されていない隣接の製品検査所で乾燥させる作業を繰り返して行っていたところ、有機溶剤中毒となった。作業者は有機溶剤用防毒マスクを着用していたが、同保護具は適切に管理されておらずもれたもの。
41	20070900	1	中毒1名	トルエン コールタール	ドックに係留していた修繕船のタンクの内部において、床面の塗装作業を換気装置を設置せずに、呼吸用保護具を着用しないで作業を行ったため、塗料からの有機溶剤ガスを吸入し、有機溶剤中毒となった。
42	20070300	1	中毒1名	トルエン 酢酸エチル アセトン 酢酸イソブチル 1-ブタノール	出荷場において、トラックに積込んだ商品の印字間違いをラッカーシンナーで消す作業を行ったところ、ラッカーシンナーに含有していた有機溶剤の蒸気を吸入し、有機溶剤中毒となった。
43	20050500	1	中毒1名	トルエン	一斗缶の内容物を有機溶剤が入っている攪拌機に投入するため、被災者が攪拌機の蓋を開けたとき、攪拌機内に充満していた有機溶剤蒸気を吸入したものの。当該作業時において、被災者は呼吸用保護具を着用していなかった。
44	20070600	1	中毒1名	トルエン	塗装工場のタンク内において全体換気装置を設置し、半面型の防毒マスクを着用して内面塗装作業を行っていたところ、タンク内の開口率が非常に狭く、タンク内に塗料から発生した有機溶剤蒸気が充満し、使用していた防毒マスクが有機溶剤濃度が推定0.1%超の環境下では使用不可であったために、防毒マスクの吸収缶が短時間で破過し、有機溶剤蒸気を吸入して急性有機溶剤中毒となった。
45	20070700	1	中毒1名	トルエン	機械加工作業場において、電機チェーンブロック用のローター部品の表面加工としてトルエン等含有塗料の塗布作業中に、排気ダクトが接続されていない局所排気装置を使用し、また防毒マスクを着用しないで作業に従事していたため、還流した有機溶剤蒸気を吸入し、急性有機溶剤中毒となった。
46	20070600	1	中毒1名	ミネラルスピリット	作業場において、塗料とミネラルスピリットを混合した塗料で、手すりの刷毛塗り塗装を行っていたところ、急性有機溶剤中毒となった。作業者は保護具を適切に着用していなかった。
47	20070100	1	中毒1名	ミネラルスピリット 石油ナフサ	共同調理場の屋外の新築工事において、ミネラルスピリットや石油ナフサを含有する塗料を外壁に吹付ける作業をしていたところ、呼吸用保護具を使用していなかったため、塗料中の有機溶剤を吸入し、有機溶剤中毒となった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
48	20070100	1	中毒1名	ミネラルスピリット	プレスの自動加工作業において、使用していたミネラルスピリットから有機溶剤等が空气中に揮発し、ミネラルスピリットを吸入し、有機溶剤中毒となった。
49	20070200	1	中毒1名	メチルエチルケトン	航空機部品の塗装作業において、メチルエチルケトンを使用して払しょくと塗装かすを取り除くという作業を行っていたところ、換気設備がなく、呼吸用保護具も未着用で作業を行ったため、有機溶剤中毒となった。
50	20070300	1	中毒1名	メチルエチルケトン	航空機部品組立工場内において、メチルエチルケトンを染み込ませたウエスで航空機部品の脱脂洗浄作業を行っていたところ、呼吸用保護具を着用せず、局所排気装置等の有効な換気装置もなかったため、発散したメチルエチルケトン吸入し有機溶剤中毒となった。
51	20071000	1	中毒1名	トルエン 酢酸エチル	選別室のベルトコンベヤーに流れる枝豆の選別作業において、仕切り用ビニールカーテンの破れている箇所にラッカーシンナーを霧吹きで吹きかけて水とばしをしてテープを貼る補修作業を行ったところ、選別作業者がラッカーシンナー中の有機溶剤蒸気を吸入し、有機溶剤中毒となった。
52	20060600	1	中毒1名	酢酸エチル	排水槽の防水加工用塗装の下塗作業を単独で行っていたが、短い時間で終わると思い、騒音を小さくしようと、排気ファンを設置・稼働せず、送気ファンのみ稼働としたため、換気が十分に行われず、かつ貸与された有機溶剤用防毒マスクを着用せずに行ったため、有機溶剤中毒になった。
53	20060400	1	中毒1名	酢酸エチル ミネラルスピリット	作業場に設置してある焼却装置の外壁等の塗装作業を家庭用油性塗料(合成樹脂塗料)及び希釈剤(ラッカーうすめ液)を使用して11日間行った。作業終了4日前頃から、塗料の濃度が濃くなったため希釈するための希釈塗料を使用し始めていたところ中毒になった。
54	20050400	1	中毒1名	酢酸ブチル	事業場の会議室において、被災者が壁などの汚れを化粧品(酢酸ブチルを25%含有する除光液)を用いて清掃する作業を行っていた際に、有機溶剤を吸入した。災害発生時において会議室内の窓は開いていたが、換気は不十分な状態だった。
55	20070300	1	中毒1名	有機溶剤	釣竿製造作業において、塗装前に行うマスクング作業に従事していたところ、同一作業場内で使用していた有機溶剤を吸入し、有機溶剤中毒となった。
56	20070500	1	中毒1名	有機溶剤	局所排気装置のない屋内作業場において、印刷機で部品に指示線を印刷する作業を行っていたところ、防毒マスクの吸収缶が破過して、印刷用インキ及びその希釈剤に含有されていた有機溶剤蒸気を吸入し、有機溶剤中毒となった。
57	20050900	2	中毒2名	トリクロロエチレン	トリクロロエチレン蒸気浴洗浄装置が故障したため、被災者らが当該装置が設置されているピット内にて修理作業を行っている際に、トリクロロエチレン蒸気を吸入した。ピット内は1.3平方メートルの開口部しかなく、換気が不十分な状態にあった。また、被災者らは呼吸用保護具を着用していなかった。
58	20060500	2	中毒2名	トルエン	設備修理工事で、元請から接着剤中の有機溶剤について知らされないまま、タンク内部で接着剤を使つてのゴムライニング作業を行っていたところ、保護具も使用しないまま作業に従事していたため、有機溶剤中毒になった。さらに救出するために、監視役の労働者が保護具を使用しないままタンク内部に入り、2次災害に至った。
59	20071000	3	中毒3名	N,N-ジメチルホルムアミド	プラスチック製品工場において、電子機器用フレキシブルプリント基板の製造のため、N,N-ジメチルホルムアミドで洗浄作業を行ったところ、有機溶剤が皮膚から体内に侵入し、有機溶剤中毒となった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
60	20061100	3	中毒3名	スチレン	破損した下水道管の補修のためのスチレン樹脂ライニング工事において、外側にスチレンを含有するライニング材が硬化した後、管路内に入りライニング材先端部の樹脂を切断したところ、ライニング材先端部の外側に滞留していたスチレンガスが流入したものの。
61	20070300	3	中毒3名	トルエン コールタール	船のタンク内において、有機溶剤含有塗料の吹き付け塗装作業を行っていたところ、換気装置や呼吸用保護具を使用していなかったため、吹き付け塗装作業で発生した有機溶剤蒸気を吸入し、有機溶剤中毒となった。なお、作業主任者が選任されておらず、作業主任者の職務も実施されていない。
62	20060700	4	中毒4名	シンナー	塗装の下請工事において、水性の塗料を用いて天井を吹付け塗装を行っていたが、塗装ののりが悪いため、元請への相談もなく、有機溶剤系の塗料を下地として吹付けていたところ、ばく露防止措置を講じないまま作業を行っていたもの。約2時間経過後に従事していた労働者4名全員がシンナー中毒になった。
63	20071000	4	中毒4名	ヘプタン等	発電所のタービンのクロスオーバー管内溶接部の浸透探傷試験において、浸透液を洗浄液で拭いていたところ、管内に残留していたヘプタンを吸入し、ヘプタンを吸入し中毒となった。救助に行った者も同様にヘプタンを吸入し、有機溶剤中毒となった。
64	20060800	6	中毒6名	シクロルヘキサン アセトン	病院内の柱補修作業のため、地下の両面テープ貼り付け部分清掃の後、塩ビシート貼りに伴い、接着力を増強するプライマー(シクロルヘキサン、アセトン等の混合物)を使用したもの。当該作業所から約6~7m離れた受付事務室で受付及び会計事務をしていた事務員が有機溶剤中毒になった。
65	20070200	6	中毒6名	スチレン	建物の改装工事において、既設の換気設備と仮設の排気装置を使って作業していたところ、換気設備と排気装置の排気口と空調設備の吸気口が近傍にあり、改装工事中に使用していた有機溶剤のガスが空調設備の吸気口を通して流入し、有機溶剤中毒となった。
66	20060800	7	中毒7名	アセトン	当初工程に入っていなかった新製品材料の金属板の表面を脱脂する作業を突如行うこととなり、アセトンを急遽入手し、バットに入れて作業台の縁においていたところ、バットと作業台の間に入れていたウエスを交換しようとしてバットが落下した。こぼれたアセトン进行处理するため、手伝いにやってきた労働者と脱脂作業中の労働者が有機溶剤中毒になった。
67	20070700	3	薬傷3名	トルエン	医薬品の中間体を製造する工程において、医薬品原料のトルエン溶液を計量槽の底部から窒素ガスを供給して攪拌していたが、計量槽の圧力弁を開けておくところを閉じていたため、計量槽内の圧力が上昇してトルエン溶液が窒素ガス配管へ逆流した。このため、窒素ガス配管内のトルエン溶液の回収を行っていた作業員が薬傷を負った。
68	20070900	3	薬傷3名	メタノール	槽と槽を結ぶ配管の解体作業において、配管内に残留していたメタノールを反応槽に戻そうとバルブを開けたところ、反応槽内の圧力が大気圧より高かったため、配管内のメタノールが逆流し、別の槽上部のバルブから噴き出し、付近で養生シートの設置作業をしていた作業員の目に入り、薬傷を負った。
69	20060700	1	化学性肺炎1名	硝酸	メッキ不良品のメッキはく離のため、希硝酸液につけ置きしておいた当該メッキ不良品を硝酸液から引き上げ、水で洗浄する作業を行ったところ、換気装置は局所排気装置があったものの、定期自主検査が行われておらず、また、呼吸用保護具は活性炭入りマスクで有効ではなかったことから、硝酸蒸気を吸入したものの。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
70	20060800	1	死亡1名	アンモニア	食品工場内の冷凍機室内において、作業者が保護具着用品がなく、冷媒であるアンモニアに混入したコンプレッサー用の油を抜くため、廃液用バルブを、通常作業で必要とされる以上に開放したことから、コンプレッサー用の油とともにアンモニアが大量に漏洩した。
71	20070500	3	死亡1名、 中毒2名	塩化水素	建築中のコンクリート製柱の補修作業において、隣接する産業廃棄物処理工場の煙突から排出された塩化水素ガスを含んだ煙を吸い込み、中毒となった。なお、産業廃棄物処理工場で発生するおそれのある化学物質を把握していなかったため、測定の実施、保護具の着用、作業場所からの退避などの措置が講じられていなかった。
72	20071200	0	大量漏えい0名	シアンを含むアルカリ水溶液	めっき工程から排出されるシアン系排ガスを洗浄する排ガス洗浄処理装置において、排水配管に設けられたバルブが腐蝕により穴が開き、内部のシアン系排ガス洗浄液が穴から流出し、防液堤内の集水升のバルブが開いていたため、雨水側溝から工業団地の調整池を経て、川に流出した。
73	20070700	0	大量漏えい0名	塩酸	原子炉安全性研究炉に設置されている塩酸貯蔵タンクにおいて、タンクの側面に設けられている液面計のガラスゲージ管とゲージバルブとの接合部から塩酸が大量に漏洩した。
74	20070600	0	大量漏えい0名	硝酸	希硝酸の貯留作業において、タンクの液面計の鉄製のふた板が希硝酸と接触することにより腐食し、腐食部分から希硝酸が大量漏洩した。
75	20060600	0	大量漏洩	アンモニア	工場内機械室において、冷凍庫の自動液戻装置に付属するフロートスイッチと配管の接合部が、経年劣化等によりボルトが腐食し、腐食により生じた隙間からアンモニア液が流出した。
76	20061100	0	大量漏洩	塩化水素	製鉄所構内のFRP製回収酸タンクが側壁下部において、ノズルの取り付け部及びピンク胴体が裂け、内容物である塩酸が大量に漏洩した。
77	20060600	0	大量漏洩	塩化チオニル 二酸化硫黄	染料原料の製造工場において、塩化チオニルをタンクローリーから所定量受け入れるため、受け入れタンク内の残液を他のタンクへ搬送していたところ、誤って予定量より過剰に搬送したために搬送先のタンクの容量を超えてしまい、溢れた塩化チオニルが配管伝いに外部へ漏洩した。外部へ漏洩した塩化チオニルは、排水溝の水や洗浄に使用した水と反応して塩化水素と二酸化硫黄となり、これを吸引した客らが中毒になった。
78	20060700	0	大量漏洩	硫酸	事業所内の屋外タンクヤードにおいて、濃度75W%の硫酸を保有している硫酸タンクの配管途中にある硫酸払出ポンプ近傍の圧力計付き液抜き用配管(塩化ビニル樹脂管)のT字管の部分がねじ切れたため、当該箇所から硫酸が漏洩した。
79	20070500	4	中毒(大量漏洩)4名	ホルムアルデヒド	病院処置室において、ホルムアルデヒド液タンクから保存容器にホルムアルデヒドを移し替える際、廊下に液体がこぼれた。これをビニール製の前掛け、側面は顔面と密着しない構造の簡易ゴーグルを着用して、紙にホルマリン液を吸収させ、紙はビニール袋に入れて焼却処分し、廊下の換気を行っていたところ、目に炎症を起こし、ホルムアルデヒド中毒となった。
80	20050700	10	中毒10名	弗化水素	弗化水素酸製造プラントの発煙硫酸ハンドコントロール弁が弁座シート漏れを起こしていたため、手動弁を閉じていたが、作業者が当該弁の弁座シート漏れを失念し、反応器の起用前に手動弁を開放したため、反応器内に発煙硫酸が流入した。この時反応器内で発生した弗化水素酸が外気吸入口から漏洩し、風下でプラント建設作業を行っていた被災者らが吸入した。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
81	20060400	1	中毒1名	アンモニア	被災者が金メッキラインにおけるニッケル槽の廃液処理の作業を行っていた際、アンモニアを供給するスイッチをオフにするのを忘れたため、自動でアンモニアが供給されてアンモニアにばく露されたもの。呼吸用保護具が酸性ガス用防毒マスクであったためにアンモニアには有効ではなく、中毒になった。
82	20060900	1	中毒1名	アンモニア	工場内にある、アンモニア水の製造プラントの配管ガスケット交換作業において、あらかじめ決められていた作業指揮者が現場におらず、発注者からの文書による具体的な指示もなかったことから、作業すべき配管がわからず、誤って工事対象とは異なる補液配管のフランジを開放し、アンモニア水が噴出し、ばく露したもの。
83	20070600	1	中毒1名	アンモニア	液化アンモニア充填容器に使用する結合部のシール材のテスト作業において、バルブに取り付けられた保護キャップが外れず、無理に保護キャップを外そうとしたところ、バルブが外れ、保護キャップの穴から液化アンモニアが噴出し、全身型防護服(送気型)の袖口部分から内に入り込み、凍傷及びアンモニア中毒となった。
84	20050500	1	中毒1名	エチレンオキシド	被災者は、消毒済みの手術道具を取り出すため滅菌器のエアレーション(洗浄作業)を行ったが、滅菌器のエアレーションが不十分だったため、滅菌器内の手術道具を取り出した際に、器内に残留していたエチレンオキシドを吸入したものの。
85	20070300	1	中毒1名	ホルムアルデヒド	病院の医療検査物の回収業務において、運搬車両内に残留していたホルムアルデヒドを吸入し、急性ホルムアルデヒド中毒となった。
86	20050100	1	中毒1名	塩化水素	被災者は、銭湯の浴槽清掃作業を行っていたが、汚れを取るために使用する塩酸含有溶液を保管容器から補充していたところ、誤って当該溶液をあふれ出させてしまったため、シャワーで当該溶液を洗い流そうとして塩化水素蒸気を吸入した。当該作業時において、被災者は呼吸用保護具を着用していなかった。
87	20061000	1	中毒1名	塩化水素	塩素化ポリプロピレンを製造するプラント内において、局所排気装置の異常に気づかず反応缶中の溶液のサンプリングを行っていたところ、吸込ダクトから逆流していた塩化水素ガスを吸入し、中毒になった。
88	20050300	1	中毒1名	塩素	井戸水の浄化設備の薬品タンクの補充作業において、次亜塩素酸ナトリウムの薬品タンクに、誤ってポリ塩化アルミニウムを投入したため塩素ガスが発生し、これを吸入したものの。これら物質のタンクは同じ物置の中に設置されており、容器の形状も似ていた。また、補充作業に係る安全衛生教育が行われていなかった。
89	20050400	1	中毒1名	塩素	被災者が薬品運搬車に搭載されていたポリ硫酸第二鉄液を搬入先の貯留槽に投入しようとしたところ、誤って次亜塩素酸ナトリウム貯留槽に投入してしまい、この反応により生じた塩素ガスを被災者が吸入したものの。貯留槽の投入口に投入すべき薬剤の種類が記載されていたが、被災者が知らされた薬品名とは異なっていた。また、搬入作業に当たり、投入先の確認は行われていなかった。
90	20060100	1	中毒1名	塩素	次亜塩素酸カルシウムを製造する反応槽において、配管のつまりを除去する作業を、特定化学物質等作業主任者の指揮なく製造反応中に行おうと塩素の反応槽への吹込を中止し、空気置換のためバルブを開け、清掃口のゴム栓を外したところ、ハロゲンガス用防毒マスクを着用していなかったことから槽内に残留していた塩素ガスを吸い込み被災したものの。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
91	20060300	1	中毒1名	塩素	飲料水浄化設備室に設置されている濾過用薬注ポンプの点検中、次亜塩素酸ナトリウム液を補充しようとしたところ、誤って近くに箱積みされていたポリ塩化アルミニウムを濾過用ポンプに入れたため、塩素ガスが発生して塩素ガス中毒になった。
92	20060400	1	中毒1名	塩素	デイサービス介護で浴室内にて入浴の準備作業を行っていたところ、前日に別の労働者が所定の消毒剤(トリクロロイソシアヌル酸含有)を、所定の量以上に入れていたため、トリクロロイソシアヌル酸の水溶液中での分解反応により塩素ガスが発生したものの。
93	20060600	1	中毒1名	塩素	廃液の焼却処理において、当該廃液等を繰り返し屋外から運び入れ、ドラム缶内に注入する作業があり、着脱が煩瑣であるため、送気マスクを着用せずに行っていたもの。ドラム缶に次亜塩素酸ナトリウムを注入している作業中に中毒になった。
94	20060700	1	中毒1名	塩素	加工野菜を滅菌するための殺菌層に溜めた殺菌液(濃縮梅酢エキスと亜塩素酸ナトリウムの混合液)に前日に指示をうけた内容を誤って次亜塩素酸ナトリウムを入れた際、塩素ガスが発生したものの。
95	20060700	1	中毒1名	塩素	被災者は、冷凍山芋とろろ製造ラインの製造終了後、山芋の殺菌を行うための次亜塩素酸を主成分とする水溶液を生成する装置に次亜塩素酸ナトリウムと希塩酸を補充しようとしたところ、誤って希塩酸供給口に次亜塩素酸ナトリウムを注入したことにより塩素ガスが発生したものの。
96	20060800	1	中毒1名	塩素	便所清掃作業において、被災者はトイレ用洗浄剤(塩酸含有)と長柄ブラシを使用して大便器の清掃を行っていたが、大便器の付着物が除去できなかった。そのため、トイレ用洗浄剤を洗い流さないまま次亜塩素酸ナトリウムを含有する漂白剤を便器内にかけたところ、その直後に、塩素ガスが発生したものの。
97	20060900	1	中毒1名	塩素	病棟汚物処理室でのポータブルトイレ洗浄において、便器内に漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム含有)を入れてあったのを、被災者が単に尿がたまっているものと錯誤して、トイレ用洗浄剤(塩酸含有)を便器に注入したため、塩素系ガスが発生したものの。
98	20061200	1	中毒1名	塩素	浴場の洗浄作業中、タイル洗浄剤(塩化水素1%以上含有)を補給するために、機械室に行ってタイル洗浄剤の入っているタンクから小分け容器に移し替えようとしたところ、タンクのノズルが外れ、タイル洗浄剤が大量に飛び散ったもの。飛び散ったタイル洗浄剤と下方に置いてあった塊状の水処理用塩素化剤(トリクロロイソシアヌル酸含有)が反応し、発生した塩素ガスを吸入した結果、中毒になった。
99	20070400	1	中毒1名	塩素	透析液供給装置の流路の洗浄・消毒作業において、洗浄に用いる酢酸系洗浄剤を希釈し、別の容器に移し替える際、誤って次亜塩素酸ナトリウムのタンクに酢酸系洗浄剤を入れてしまい、発生した塩素ガスを吸入し、中毒となった。
100	20070600	1	中毒1名	塩素	表面処理加工工場において、純水製造装置のろ過材を洗浄するための貯蔵タンクに塩酸を補給するところ、塩酸と取り違えて硝酸を投入した。その後、塩酸タンクから「煙が出ています」との連絡で現場に駆けつけ、塩酸タンクの様子を見ていたところ、発生したガスを吸入して塩素ガスによる急性中毒となった。。
101	20070600	1	中毒1名	塩素	工場設備の改造工事において、工場の排水溝に流れた廃液から塩素ガスが発生し、拡散し、足場組立作業に従事していた者が塩素ガスを吸入し、中毒となった。
102	20070800	1	中毒1名	塩素	プールの消毒剤(次亜塩素酸ナトリウム)タンクに誤って凝集剤(ポリ塩化アルミニウム)を入れたため、化学反応を起こし塩素ガスが発生し、中毒となった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
103	20070800	1	中毒1名	塩素	試験用試料(ステンレス溶接剤)の溶接部分を写真撮影するための表面処理作業において、塩酸と過酸化水素を混合したエッチング液を作り、試料の表面を刷毛でエッチング液を塗ったところ、塩素ガスが発生し中毒となった。
104	20071000	1	中毒1名	塩素	次亜塩素酸ソーダのタンクにおいて、次亜塩素酸ソーダをタンクに充填しようとしたところ、誤ってポリ塩化アルミニウムを充填したため、次亜塩素酸ソーダとポリ塩化アルミニウムが化学反応して塩素ガスが発生し、発生した塩素ガスを吸入し、中毒となった。
105	20071100	1	中毒1名	塩素	塩酸の貯蔵タンクからコンテナにホースで圧送する作業において、塩酸用のコンテナに注入すべきであるのに誤って次亜塩素酸ナトリウム用のコンテナに注入し、コンテナに残留していた次亜塩素酸ナトリウムと注入した塩酸が混合し、塩素ガスが発生し、外部に流出した塩素ガスを吸入し、塩素中毒となった。
106	20060400	1	中毒1名	五酸化バナジウム	製油所発電設備の点検工事後、会社の駐車場で、現場から持ち帰らないことと定められていた作業衣を着用して、バキュームカーの洗浄作業を行ったもの。この時、五酸化バナジウムを含有した燃焼灰を吸入し気管支炎等を発症した。
107	20070600	1	中毒1名	硝酸 弗化水素	製缶工場において、希硝酸と酸性弗化アンモニウムを溶解させた水溶液を噴射しながら、ステンレス製サイロ内部の酸洗作業を行ったところ、防毒マスクを着用せず作業を行ったため、硝酸及び弗化水素を吸入し中毒となった。
108	20060300	1	中毒1名	二酸化窒素	銅廃液タンク内の銅析出物を廃硝酸水溶液を使用して除去する工程において、担当者が帰宅時に廃硝酸水溶液を循環させるポンプを停止したが、その後も銅と廃硝酸水溶液が反応して二酸化窒素が発生し地下タンクヤードに充填した。緊急対応の指揮をしていた被災者が、呼吸用保護具を使用せずに事業場の地下タンクヤード入り口で二酸化窒素ガスを吸入して中毒になった。
109	20060800	1	中毒1名	二酸化硫黄	屋上にある吸収塔の点検台の上で塗装作業を行っていたところ、目の前にあった配管口から、重合機の運転により発生した二酸化硫黄が噴き出し、それを知らされていない労働者が吸入したもの。
110	20070300	1	中毒1名	二酸化硫黄	洗缶工場から返却されたポリタンクの洗浄作業において、洗浄済みのポリタンクから異臭がしたため、ポリタンクの蓋を開け、顔をポリタンク注入口に近づけたところ、ポリタンク内に溜まっていた亜硫酸ガス(二酸化硫黄)を吸入し中毒となった。
111	20060100	1	中毒1名	硫化水素	廃棄物からメタンガスを製造する工程で副生する硫化水素の定期測定を行っていたところ、積雪により施設内の窓、シャッターが開放できなかったことや、換気が不十分で精製前のバイオガスが高濃度で施設内に残留し、さらに、防毒マスクの装着が不十分であったため、マスクの隙間からバイオガスが流入し、硫化水素にばく露したもの。
112	20060300	1	中毒1名	硫化水素	融解状硫黄の回収装置の復旧作業中に脱硫装置の原料ガスの緊急遮断弁が閉止したため、ドレン弁から閉塞物を除去しようと慌てて、備付けの保護具を着用することなく、ドレン弁を閉止しようとしたが、ドレンノズル先端から噴出したガスを吸い込み硫化ガス中毒になった。
113	20060600	1	中毒1名	硫化水素	フロン破壊装置での運転業務中、中和剤であるカーバイドスラリー中に溶存硫黄が含まれていることを確認していなかったため、中和槽にフロン破壊過程で発生した弗化水素、塩酸を投入したときに溶存硫黄と反応して硫化水素が発生していることを認識できず、中毒となったもの。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
114	20060800	1	中毒1名	硫化水素	廃棄物中間処理工場の攪拌槽に廃液投入後、タンクローリーを洗浄し、タンクローリー附属のエアクリーナー(空気と酸を分離する装置)内に溜まっていた廃液をバケツに受け、開口部の蓋を開けて、攪拌槽内に流し入れようとしたところ、開口部から漏れ出た硫化水素ガスにばく露したものの。
115	20070100	1	中毒1名	硫化水素	タンクローリー中の硫化水素ナトリウムを受入タンクに入れる作業において、受入タンクが一杯になったため、タンクローリーに残っていた硫化水素ナトリウムを仮受ボックスに注いだところ、空気中の二酸化炭素との反応で硫化水素が発生し、中毒となった。
116	20071000	1	中毒1名	硫酸	自動車の整備工場において、自動車用バッテリーの過充電により、バッテリーの排気筒から希硫酸が霧状になって噴き出し、これを吸入して中毒となった。なお、整備工場内の換気扇は稼働しておらず、通風が不十分であった。
117	20050600	32	中毒32名	塩素	ショッピングセンター地下1階に設置されている地下水浄化設備において、凝集沈殿用のポリ塩化アルミニウムを投入するための薬注装置にポリ塩化アルミニウムを補充しようとして、誤って殺菌用の次亜塩素酸ナトリウム約20リットルを入れたため、薬注装置に残留していたポリ塩化アルミニウム約50リットルと反応して塩素ガスが発生し、配管等を通じ建屋内にガスが広まり、水処理作業員、百貨店従業員、来客者が被災した。
118	20060800	2	中毒2名	エチレンオキシド	手術準備室において、医療機器販売業者の作業員が室内に設置している(エチレンオキシドのガスボンベを新品に交換する作業を行っていたところ、作業に慣れていない作業員が、誤った栓を開放したため、ボンベ内のガスが漏れたもの。
119	20070800	2	中毒2名	ホスゲン	プラント内の各機器等の残量物の抜き取り作業において、プラントのポンプの残液確認のため、ポンプの液抜きプラグを取り外したところ、ホスゲンを含んだ内容物が流出し、作業員等がホスゲンガスを吸入し中毒となった。
120	20060200	2	中毒2名	ヨウ化メチル	治験薬材料の最終工程の炉過作業をした際、ヨウ化メチルが排液配管を接続するポリ塩化ビニル製のダクトホースを溶かして床面に流出したため、ハロゲンガス用の防毒マスクを着用して、ホースの交換作業及び床面の清掃作業を水洗及び拭取りで行ったところ、ヨウ化メチルを吸入して中毒になったもの。
121	20060400	2	中毒2名	塩素	食肉等のパック詰め原料等の殺菌・消毒作業において、使用する次亜塩素酸ナトリウム溶液に、次亜塩素酸ナトリウム溶液を補充しようとしたところ、容器の形状が似ている食酢を誤って入れてしまったことにより塩素ガスが発生し、中毒になった。
122	20061000	2	中毒2名	塩素	アルミリサイクル工場の塩素気化室において、作業主任者が2名とも休日を取っていた中で、塩素ボンベの交換作業を一人でテルハを使って行っていたところ、外したバルブがボンベの縁に引っかかり、銅配管が引っ張られたため、バルブ付近の銅配管に亀裂が入り、別系統の塩素が逆流したものの。塩素気化室を覗いた労働者が塩素ガスを吸入し塩素中毒をおこした。
123	20070700	2	中毒2名	二酸化硫黄	工場内試験室において、ビール製品等の分析を行うため、分析する物質に硫酸、過酸化水素水を混合したものを、ドラフト内に設置した分解器で過熱して反応させ、15分間冷却した後でドラフト外に仮置きしたところ、仮置きした分析物付近で作業を行っていた者が分析物の反応過程で発生した二酸化硫黄(亜硫酸ガス)を吸入し、中毒となった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
124	20070200	2	中毒2名	硫化水素	シリコン系の製品の製造工程において、反応終了後の製品内に残る硫化水素を分離するため、有機酸をエタノールに混ぜたものをポンプで滴下作業中、有機酸の滴下の速度が速かったため、多量に硫化水素が発生し、反応器の配管から漏れた硫化水素を吸入し、硫化水素中毒となった。それを見て助けに行った作業員も同様に硫化水素を吸入し、硫化水素中毒となった。
125	20050700	3	中毒3名	シアン化水素	リサイクル工場の建屋内において、焼却処分依頼を受けた60リットルのトリメチルシリルニトリルを誤って含水廃アルコール溶液中に投入してしまったため、トリメチルシリルニトリルと水の化学反応によってシアン化水素が発生した。これを被災者が吸入して意識を失い、それを見て救出作業を行おうとした作業員及び付近で電気工事を行っていた作業員も同時に当該物質を吸入したものの。
126	20070400	3	中毒3名	塩化水素	配管のフィルターの清掃作業において、配管中の四塩化ケイ素を窒素を封入して除去するため、配管を接続して窒素を封入し、バルブを開けたところ、閉止しておくべきだったバルブの1つが開いており、四塩化ケイ素が大気的水分と反応して塩化水素ガスを発生し、吸入して中毒となった。
127	20070700	3	中毒3名	塩素	浴室の清掃作業において、塩素系洗剤と酸性洗剤を混合使用により、塩素ガスが発生し、吸入して中毒となった。
128	20050200	4	中毒4名	塩素	病院内の人工透析室内にある機械室において、人工透析装置を洗浄するため、被災者の一人が次亜塩素酸ナトリウムを6%以上含有する洗浄剤を投入しようとした際に体勢を崩したため、洗浄剤がカルボン酸系化合物を60%含有する薬剤が入っているタンク内に混入した。近くで作業を行っていた者がこの時発生した塩素ガスを吸入したものの。
129	20060800	51	中毒51名	塩素 塩化シアン	有機化合物の製造設備で塩素供給配管のコントロールバルブを修理するため、反応器に反応液(塩化シアン水溶液)が入った状態で、配管内の塩素を窒素ガスで置換していたところ、排ガス吸収塔にアルカリが予定よりも少なかったため、吸収できなくなった排ガス中の塩素及び塩化シアンが大気排出パイプから、警報が鳴らされないまま大量に排出されたものの。
130	20071200	6	中毒6名	アンモニア	危険物取扱所において、廃液をドラム缶内で混合していたところ、突然混合液が突沸し、ドラム缶からアンモニアガスが発生し、混合作業者及び周辺の作業員がアンモニアガスを吸入し、中毒となった。
131	20060900	6	中毒6名	弗化水素	電子線加速器を使用してポリテトラフルオロエチレンを分解して微粉末にするための反応を行っていたところ、別の作業員が入り、反応作業中のポリテトラフルオロエチレンの入っていたトレイを局所換気装置がない作業場内で保管したところ、分解副生物として発生する弗化水素を吸入して中毒になった。
132	20070600	7	中毒7名	シアン化水素	シアン化銅めっきラインにおいて、めっき反応槽のめっき溶液循環システムの配管接合部がはずれ、めっき溶液(シアン化ナトリウム溶液)が床面に漏洩し、発生したシアン化水素ガスを吸入し、中毒となった。
133	20070500	8	中毒8名	塩化水素	ドラフトチャンバー内において、ベンゼンに塩化アルミニウムを混入した懸濁液に塩化アセチルを少量ずつ加え、アセトフェノン合成する作業を行っていたところ、塩化アセチルの滴下スピードの調節が適切ではなかったため、反応時に副生する塩化水素を吸収させる目的で設置していたフラスコ内の水が逆流し、逆流した水と塩化アルミニウムとが激しく反応して、塩化水素が急激に発生した。その後、ドラフトチャンバーの扉を開けた状態で、作業を行っていたところ、中毒となった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
134	20060600	5	中毒等5名	塩化水素	パッケージエアコン配管の洗浄作業を行っていたところ、配管が目詰まりして塩酸溶液が中に入らなくなったので、作業標準とは異なる目詰まり解消方法としてポンプに空気を注入した。その結果、ポンプに接続してあるホースが外れ、ホース内部に滞留していた塩酸溶液が噴出したもの。
135	20070400	1	薬傷(大量漏えい)1名	硫酸	製錬所の乾燥棟において、出口側配管から濃硫酸が漏れ出したため、配管の応急補修作業を行ったところ、プラントを停止せず作業を行ったため、濃硫酸の漏出量が増し、漏れ出した濃硫酸により薬傷を負った。
136	20050300	1	薬傷1名	トリレンジイソシアネート メチレンビスフェニルイソシアネート	トリレンジイソシアネートとメチレンビスフェニルイソシアネートの混合物をタンクローリーに積み込む作業を行っていたところ、タンク内の容量を計測するための検尺口から当該混合物が噴出し、被災者がこれを浴びた。当該物質は粘度が高いため、タンクローリーの排気を行う配管内に当該物質が詰まり、タンク内の圧力が上昇して、検尺口から噴出した。
137	20060900	1	薬傷1名	硫酸	鑄造工場において、硬化剤(主成分:硫酸38%)のコンテナが空になったため、新しいコンテナへの交換作業中、コンテナにホースを接続せず開閉バルブを開放したところ硬化剤が噴出し、交換作業を行っていた被災者が顔面部等に硬化剤を浴び、コンテナの開閉バルブを閉止できず、硬化剤500リットル程度が漏洩したものの。
138	20050200	1	薬傷1名	硫酸ジメチル	倉庫内に約1年8か月保管していた硫酸ジメチルが、容器の腐食により約70リットル漏洩したため、3名で当該物質の中和処理作業を行っていた際に、被災者が目の異常を訴えたもの。当該倉庫は換気設備は設置されておらず、中和処理作業に当たり十分な換気が行われていなかった。また、被災者らは保護眼鏡、防毒マスク等有効な保護具を着用していなかった。
139	20070900	3	薬傷3名	硝酸	プラント工事において、廃ガスを除害設備に運ぶ配管の取替え工事を行っていたところ、配管の水平部に凝縮した硝酸が配管が傾いた際に流れ出し、配管のフランジ開放部から噴出し、保護衣着用を指示されていなかったため、硝酸を浴びて薬傷になった。
140	20060300	3	薬傷3名	硫酸	工場内の廃水処理場内において、硫酸供給用のポンプを新たに取り付けるために、配管用のホースを、水平方向から垂直方向に曲がった枝管に差し込み、上方へ押し込もうとしたところ、枝管の付け根部分が破損し、硫酸(濃度78%)が漏れて飛散し火傷を負った。
141	20060600	3	薬傷3名	硫酸	工場の廃液処理施設の硫酸ポンプ点検中、工事請負業者の労働者は硫酸ポンプを取り付けた後、硫酸がスムーズに流れなかった。このため、硫酸ポンプの不具合であると確認した労働者はストレーナーと勘違いして逆止弁のキャップを開けたところ、系内のエアージャム内に蓄えられていた硫酸が、逆止弁から噴出し、薬傷を負ったもの。
142	20070200	5	薬傷5名	塩化水素	工場建屋の配管撤去作業において、塩化ビニールライニング配管をプラズマ切断したところ、塩化水素ガスが発生し、眼に薬傷を負った。
143	20050100	1	中毒1名	N, N-ジメチルアセトアミド	被災者が鑄造金型の洗浄作業のため、N, N-ジメチルアセトアミドを主成分とする洗浄剤を5ヶ月間日常的に使用していたところ、急性肝炎となったもの。被災者は呼吸用保護具等の保護具を着用し、作業場には換気設備も設置されていたが、換気能力不足のため、室内に滞留した当該物質にばく露し続けたものと考えられる。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
144	20050200	1	薬傷1名	ペルメトリン(シロアリ薬剤)	木造建築物におけるシロアリ防除作業を被災者を含む2名で行い、一人がシロアリ薬剤(主成分:ペルメトリン)を噴霧器で吹き付けている付近で、被災者が当該薬剤の塗布作業を行っていたため、当該物質にばく露した。被災者らは保護眼鏡を着用しておらず、当該建築物がリフォーム中であったため、窓枠、扉等にはシートが張っており、自然換気も十分でなかった。
145	20050300	1	中毒1名	過酸化ベンゾイル	過酸化ベンゾイルの混合物を製造する工場に設置されているろ過槽のろ布の取り替え作業を、被災者を含む2名の作業者が行った際に、ろ布を固定しているビスをドライバーで取り外した時に白煙が噴出した。被災者がこの白煙の発生を止めるために消化ポンプで放水を行っている最中に、当該白煙を吸入した。被災者は呼吸用保護具を着用していなかった。
146	20050400	1	中毒1名	過酸化水素	宿泊施設の室内において、被災者が過酸化水素含有の洗浄剤を用いて室内の洗浄作業を行っていた際に、過酸化水素蒸気を吸入した。当該作業時において、室内の入り口及び窓は開放されていたが、換気設備は設置されておらず、被災者は呼吸用保護具を着用していなかった。
147	20050400	3	薬傷3名	水酸化ナトリウム	製鉄所構内の工場において、鋼板の酸化膜の除去に使用するソルトバス槽の更新工事において、被災者らが槽内の水酸化ナトリウムを主成分とする固化物の粉碎、除去作業を行っていた際に化学火傷をおった。被災者らはゴム手袋等の有効な保護具を着用していたが、保護具の隙間から水酸化ナトリウムが侵入し、皮膚に接触した。
148	20050400	1	中毒1名	イソプロピルフェノール	ゴルフ場メンテナンス部門の控え室において、被災者はエポキシ樹脂を用いてゴルフカートの補修作業を行っていたが、当該樹脂の硬化を早めるためヒートガンを用いて樹脂の乾燥を行っていたところ、当該樹脂からイソプロピルフェノール等が発生し、吸入した。被災者は手元の換気を行っていたが、換気装置の風向きが被災者の方向に向いていた。また、呼吸用保護具は使用していなかった。
149	20050500	3	中毒3名	フルオロカーボン(1,3-ジクロロ-1,1,2,2,3-ペンタフルオロプロパン)	地盤凍結実験用のたて坑に設置された凍結管に、被災者らが不凍液(フルオロカーボン含有)を充填している際に、付近の配管のジョイント部から不凍液が漏洩した。被災者らが呼吸用保護具を着用せずに、ポリバケツで不凍液の回収作業を行ったため、フルオロカーボンを吸入した。
150	20050600	11	薬傷11名	水酸化ナトリウム	48%水酸化ナトリウム水溶液をタンクから棧橋に停泊中の貨物船に配管を通じて搬送している最中に、船内にて水酸化ナトリウム水溶液が漏洩したため、自動閉鎖装置が稼働して船側のバルブが急に閉鎖された。その結果配管内が高圧となったため配管が破損し、水酸化ナトリウム水溶液が噴出し、これを棧橋周辺で作業を行っていた被災者らが浴びた。
151	20050700	19	中毒19名	2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン等	当該事業場において、2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オンの50%水溶液の製造作業に従事していた被災者らが、当該物質又はその製造過程において発生する中間体に接触・吸入して被災した。当該製造過程において、被災者らは、呼吸用保護具を着用せず、また、原因物質に有効でない保護手袋を用いるなど、不適切な保護具を着用して作業にあたっていた。
152	20051000	5	薬傷5名	ケイ酸メチル	工場内において、被災者らがケイ酸メチルが残存したドラム缶の開封及び洗浄作業を行った際に、当該物質の蒸気により目を負傷した。当該作業時において、工場内の窓や扉は閉め切られており、換気が不十分な状態にあった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
153	20060100	0	大量漏洩	蓄熱材	冷暖房所の蓄熱システムにおいて、システムの点検作業で制御盤により電源を「切」としたところ、弁が誤作動で開き、蓄熱槽とオーバーフロー配管の水頭圧の差により、オーバーフロー配管側に蓄熱材が流れ、さらにオーバーフロー配管の手動弁が開放状態となっていたため蓄熱材が流出し、一部が排水溝を伝わり川に流れこんだ。
154	20060100	3	薬傷3名	過酸化水素	滅菌器で医療用具の滅菌作業を行っていたところ、表示上では正常に終了したが、通常の終了時には残っていないはずの水滴が残っていたので、素手にて医療用具を入れた滅菌袋を出していたところ、残留して滅菌袋に付着していた過酸化水素水により薬傷を負った。
155	20060100	3	中毒3名	二酸化塩素	パルプ製造設備でシール水用の配管を新設する工事を行っていたところ、移動のため複数の配管を乗り越える際に硬質塩化ビニル製の二酸化塩素水が流れている配管(塩ビ管)に足をかけたところ、体重の重みで当該塩ビ管がフランジ付近より折損し、漏出した二酸化塩素ガスを吸い込んだ。
156	20060200	1	中毒1名	オゾン	化学実験室において、オゾン発生機(無声放電式小型オゾン発生機)により発生させたオゾンと溶剤を反応させようとしている際、供給酸素中の水分の凝固によりオゾンの供給が止まったため、オゾン発生機を停止させ、オゾン注入用のビニール管を外して酸素の供給状況等を確認していたところ、ビニール管から噴出したオゾンを吸入した。
157	20060200	1	中毒1名	医薬品原体	造粒装置で医薬品製剤の顆粒試作を行っていた室で、顆粒の状態を確認しようと造粒装置に覗き込むように数回顔を近づけた際、マスク等の呼吸用保護具を着用していなかったため、医薬品原体を吸入したものの。
158	20060300	1	中毒1名	クロルピクリン	使用済みの農家用ビニールトンネルを撤去する作業にとりかかった時、別の作業者が土壌くん蒸作業で使っていたクロルピクリンを吸入したものの。
159	20060300	1	薬傷1名	しゅう酸	染色ミスをした製品を脱色するための補助剤であるしゅう酸水溶液の作製に当たり、温水を入れたポリバケツに針状結晶のしゅう酸を一気に投入したところ、しゅう酸が飛び散り、それを吸入したものの。
160	20060300	3	薬傷3名	ぎ酸	金属表面処理剤の製造工場内で、原料仕込み作業の際、ぎ酸の容器(ポリエチレン製)へ誤って硝酸を入れ、この容器を保管場所である劇物置場へ置いていたところ、ぎ酸と硝酸が反応して生成した炭酸ガスにより約1時間後に容器が破裂し、ばく露したものの。
161	20060300	1	中毒1名	二酸化炭素	配送センター屋外のプラットホームにて、保冷箱に入れていた使用済みの保冷剤を水洗いするため、保冷箱からコンテナに保冷剤を移し替えて、コンテナ内にホースで水を注いだところ、コンテナの中に混入していたドライアイスの気体を吸入したものの。
162	20060400	4	化学熱傷4名	水酸化カリウム ジメチルスルホキシド	液晶製造工程において、前日に交換した洗浄機の配管が、材質変更等により機械の振動に耐えられず配管継ぎ手部分で亀裂したため、水酸化カリウム、ジメチルスルホキシド混合液が階下に流出し、その回収作業中にばく露したものの。
163	20060500	0	大量漏洩	一塩化硫黄	一塩化硫黄の製造工程において、反応槽で製造された塩化硫黄(液体)を冷却、製品分析後、待受槽へ移液し、さらに製品貯槽への移液作業中、製品貯槽下部の移液用配管に亀裂が発生し、当該箇所から一塩化硫黄が大量漏洩した。
164	20060500	54	中毒54名	臭素	臭素貯蔵ドラムの配管点検工事において、臭素供給システムの計装空気のドラムへの送気開始時に、ドラムの後流にあった緊急逃がし弁が復電により自動的に開いており、さらに仕切板がなく、緊急逃がし弁から除害塔への配管を外していたため計装空気が漏えいし、付近にいた被災者が避難できずに計装空気中の臭素を吸入したものの。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
165	20060500	1	中毒1名	アセトニトリル	医薬品中間体の製造工程で、遠心分離機内のろ布面に付着したアセトニトリルを含んだ結晶物の掻き落とし作業及びアセトニトリルの仕込み作業に行っていたところ、直結式小型防毒マスクを外しながら、ラバー製の短手袋で作業を行っていたため、アセトニトリル中毒になった。
166	20060500	1	中毒1名	パラコート	事業所周辺で、同伴者の指示により、「ミスト機での散布は絶対に行わないこと」との記載がなされていた除草剤を噴霧する作業を、呼吸用保護具、保護メガネを着用せずに行ったところ、パラコート中毒になった。
167	20060500	1	中毒1名	酸化鉛	工場焼成室にて、抵抗器にホーローの粉末(酸化鉛含有率40%以上)を使用し、1月初旬からふるいにてふりかけ作業を行っていたところ、鉛中毒になった。
168	20060600	2	中毒2名	二酸化炭素	温泉保養施設において、同施設の1階倉庫で床面の穴あけ作業を行っていた労働者が、床面に埋め込まれていた二酸化炭素消火設備用配線があることを知らず、そのまま床面の穴あけ作業を行い、消火設備の配線を切断した事により、同設備が稼働し、同施設の地下1階機械室に二酸化炭素が放出された。この時、地下1階機械室の隣の地下1階内部階段付近にいた労働者が大量の二酸化炭素を吸入し中毒となった。
169	20060600	1	死亡1名	フッ化スルフルル	博物館の地下収蔵庫内の害虫駆除作業後の換気作業(排気ファンに排気ダクトをつなぎ、屋外に換気する。)に、呼吸用保護具を着用せずに従事していた労働者が倒れ、搬送先の病院で肺水腫で死亡した。
170	20060600	21	中毒21名	撥水剤(炭化水素系溶剤80~90%含有)	幼稚園新築工事において、撥水剤の吹付け作業による塗布を行っていたところ、同作業現場からいくらか離れたところにいた労働者が撥水剤の噴霧粒子にばく露したものの。
171	20060700	1	薬傷1名	有機リン(フェニトロチオン)	害虫駆除作業において、殺虫剤の散布を行っていた被災者が作業を終え、洗身もせずに自宅に帰宅したところ、その過程において薬傷をおったもの。
172	20060700	7	中毒7名	クロロピクリン	災害復旧工事において、線路上に堆積した土砂をドラグショベルを用いて取り除いていたところ、クロロピクリン含有のくん蒸用農薬缶が破損し、発散した蒸気にばく露したものの。
173	20060700	1	死亡1名	二酸化炭素	建造中の船の舵機室下、ラダートランク内において、舵の軸受け穴へ同径のスリーブ(金属製の筒)を挿入するため、冷やし締め(メタノールとドライアイスの入ったドラム缶にスリーブを浸け、収縮させる。)作業を行っていたところ、二酸化炭素中毒で死亡した。
174	20060700	2	中毒2名	二酸化塩素	内層酸化処理ラインの処理液の入った各槽に、指示書に基づき薬液の補充を行う作業を行った際に、硫酸槽に入れるべき硫酸(63%)を、誤って酸化処理槽(亜塩素酸ナトリウム・リン酸三ナトリウム・水酸化ナトリウム)に入れたことにより発生した二酸化塩素ガスを吸入したものの。
175	20060700	1	中毒1名	アジ化ナトリウム	プラントの反応缶にアジ化ナトリウムを投入する作業を行っていたところ、持っていたアジ化ナトリウム入りの袋が破れアジ化ナトリウムがこぼれたため、ポリエチレン製の手袋の上に軍手を着用していた手ですくい回収したところ、アジ化ナトリウムにばく露したものの。
176	20060800	1	中毒1名	鉛	社寺建築物等の彩色製作作業において、その原因として、鉛成分を含む絵の具が付着した筆を整えるために筆先を直接口を含むことや絵の具を素手で調合すること等をしてきたため、鉛中毒になった。
177	20060800	5	中毒5名	塩化亜鉛	倉庫棟の燻蒸作業において、燻蒸前に実施する倉庫棟の気密試験のため、発煙筒を着火し1時間程度たった後に、被災者が呼吸用保護具(有機ガス用吸収缶)を装着し、倉庫内に入ってシャッターを開ける等の排気作業をしていたところ、粉じん用フィルターのない有機ガス用吸収缶を使用していた労働者が発煙筒燃焼時に発生した塩化亜鉛を吸入したものの。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
178	20060800	3	薬傷3名	添加剤	ブタジエンを製造する装置における添加剤の注入設備の定期修理工事の事前準備工事として、配管に閉止板を挿入する作業を行っていたが、口頭により申し送りしたため、水洗されていない下流側の配管があることが引き継がれないまま、次工程の閉止板の挿入作業に取り掛かった下請作業者が添加剤にばく露したものの。
179	20060800	6	薬傷6名	酸化防止剤	酸化防止剤を注入する設備修理工事において、配管に閉止版を挿入する作業を行っていた過程で、床にこぼれ落ちていた酸化防止剤が洗浄しきれずに残っていたにもかかわらず、配管内には酸化防止剤がないものとして保護具の指示がなされて作業が行われたところ、酸化防止剤にばく露したものの。
180	20060900	1	中毒1名	亜硝酸メチル 窒素酸化物	炭酸ジメチル製造設備改修工事において、足場解体撤去工事中にメタノール用の有機ガス用防毒マスクを使用していたところ、放出されていたガス(亜硝酸メチル、窒素酸化物等)を吸い込んだもの。
181	20060900	10	中毒10名	HCFC-225ca/HCFC-225cb	車両用エンジン等のターボ部品加工ラインにおいて、密閉できない構造で、外部冷却機(逆流凝縮機)を設置したものの蒸気の漏れを抑えることができない自動洗浄装置から漏洩したガスに、近くで作業を行っていた労働者がばく露したものの。
182	20060900	3	中毒等3名	水酸化カリウム	洗浄槽にアルカリ洗浄液を作っている途中、バケツに入れた薬品(水酸化カリウム含有)を投入後、バケツの底に残った薬品を残らず槽内に入れるため、バケツに槽内の水を汲み入れたところ、水と水酸化カリウムが反応してアルカリ性の蒸気が上がり、発生した蒸気にばく露したものの。
183	20061100	1	中毒1名	鉛化合物	ペレット状の塩化ビニルコンパウンドを製造する工程において、作業場所、作業内容によっては、鉛を含有する粉じんが激しく舞い、建屋内に粉じんが堆積し、また2次発じん対策も洗身設備がないなど日頃から化学物質による健康障害防止対策が十分でなく、保護具を着用していたのが、鉛化合物(紙袋)の投入時、機器の清掃時のみであったことから、反復的かつ継続的に鉛化合物を吸入して鉛中毒となった。
184	20061100	4	中毒4名	一酸化鉛	鉛プラント(鉛焼成機械設備)解体工事現場において、防じん機能を有していない吸収缶を使用していたことや、建屋の所有主が既に電気の供給を停止していたため、換気装置が使用できなかったこと等のため、二次下請業者の作業員4名が鉛中毒症状を発症した。
185	20061200	1	中毒1名	農薬原体	農薬工場において製品である農薬(殺虫剤、除草剤)の包装作業に従事していたが、社内規程によらない自分のガーゼマスクを着用して作業をし、さらに除じん設備のフードの位置が不適切で、農薬原体が被災者の顔面付近を通過するような職場環境での作業を約1か月にわたって続けていたため、中毒になった。
186	20070100	1	中毒1名	2,4-ジクロロトルエン	ドラム缶へ薬剤を充填する作業において、自動計量器が適切に作動せず、充填ノズルとドラム缶の注入口の隙間から2,4-ジクロロトルエンが漏れ出したため、漏れた2,4-ジクロロトルエンをウエスで拭きとったところ、同ウエスの2,4-ジクロロトルエン蒸気を吸入し、中毒となった。
187	20070300	1	中毒1名	ニトロベンゼン	研究室において、ドラフトチェンバー内で化学反応実験中、異常発熱反応が起こり、試薬を混合、溶解するために使用していたニトロベンゼンが発散し、ニトロベンゼンガスを吸入し、中毒になった。
188	20070300	6	中毒6名	メタクリル酸メチル	模型鑄造作業において、原料である発砲スチロールの熱分解により発生した排気ガス(熱分解ガス:主にメタクリル酸メチル)を真空ポンプで吸引し、ダクトにより排出していたが、ダクト端部の排出口が完全に屋外に出ていなかったため、排気ガスが工場内へ逆流して、中毒となった。

No	発生年	被災人数	被災内容	原因物質	発生状況
189	20070400	1	薬傷1名	塩化亜鉛	工具庫内でガス溶接・溶断用吹管をはんだ付けで補修作業において、ペットボトルに入れていた「はんだ付け用金属洗浄液(塩化亜鉛水溶液、約50%)」をお茶と間違えて飲み、薬傷となった。
190	20070400	4	薬傷4名	次亜塩素酸ナトリウム	野菜の加工作業場において、次亜塩素酸ナトリウムを使用する洗浄器を用いて野菜の殺菌を行っていたところ、洗浄器を連続して運転したため、次亜塩素酸ナトリウムミストが飛散し、これを吸入して薬傷を負った。
191	20070500	4	中毒4名	p-ニトロベンゾニトリル	写真用薬剤製造工程において、濃縮化したp-ニトロベンゾニトリルとメタノールの混合物を他の反応工程に送る配管が詰まったため、メタノール、トルエンを使用して、配管の分解・洗浄作業を行ったところ、防毒マスクを着用していたにもかかわらず、中毒となった。同保護具は適切に管理されておらず、有効に働いていなかった。
192	20070600	1	中毒1名	アニリン p-トルイジン	顔料の中間体製造の仕込み作業において、回収アニリンをタンクに移し替えようとしたところ、バルブ操作を誤り、アニリンがパラトルイジンが入ったドラム缶へ流れ込み、ドラム缶から溢れて作業場へ流出した。そこで、こぼれたアニリンを拭き取ろうとして足を滑らせ、こぼれたアニリンの上に転倒し、作業服にアニリンが付着したにもかかわらず、服は着替えたが身体を洗浄しないまま拭き取り作業をしていたところ、皮膚からアニリンを吸収し中毒となった。
193	20070600	1	中毒1名	二酸化炭素	立体駐車場の炭酸ガス消化設備用の炭酸ガスポンベの撤去作業において、非常用の容器弁開放器の引金を引いたところ、開放された炭酸ガスの圧力によりポンベのガス加圧容器弁開放器が開き、ポンベを取外していたポンベ取付口から立体駐車場に炭酸ガス(二酸化炭素)が放出され、二酸化炭素ガスを吸入し、中毒となった。
194	20070600	1	中毒1名	殺虫剤	害虫駆除(薬剤散布)を行った住宅において、薬剤散布から約2時間が経過し、外から煙が消えたように見えたため、入室したところ、殺虫剤が十分排出されておらず、殺虫剤を吸入したため、中毒となった。
195	20070700	1	薬傷1名	水酸化ナトリウム 炭酸カルシウム	薬液(苛性ソーダ、炭酸カルシウム含有)から炭酸カルシウム等の不純物を取り除く装置において、同装置がスケール詰まりにより薬液の流量が低下したため、機械下部の手動排液弁を徐々に開放して排出作業を行ったところ、約100度の薬液が噴出し、飛び散った薬液が足にかかり薬傷となった。
196	20070800	1	薬傷1名	水酸化カリウム	水酸化カリウムの包装充填場において、フレーク状の水酸化カリウムを紙袋に充填する作業を行っていたところ、水酸化カリウムの粉じんが発汗により濡れていた衣服を浸透し、皮膚に付着したが、皮膚に付着した水酸化カリウムを水洗い等で直ちに除去しなかったため、アルカリ熱傷となった。
197	20070800	3	薬傷3名	水酸化カルシウム	製紙工場の導水管のトンネル補修工事において、セメントミルク圧送用配管解体後の搬出作業を行っていたところ、横坑内に深さ40cmくらいまで溜まっていたセメントミルク洗浄水が手や足に接触し、セメント皮膚炎の薬傷を負った。
198	20070800	1	中毒1名	次亜塩素酸ナトリウム 炭酸ナトリウム	塗装工事において、塗装の下準備として建屋外面の木部洗浄作業(屋外作業)を液体洗浄剤を使用して行っていたところ、呼吸用保護具ではなく、防じんマスクを着用していたことから、洗浄剤成分を吸入し、中毒となった。
199	20070800	2	薬傷2名	水酸化カリウム	水酸化カリウム供給設備のポンプバルブの交換作業において、作業完了後、設備の気密試験を行うため、配管に仮設フランジ及びパイプを設置し、ポンプ及び配管の洗浄作業を行っていたところ、仮設パイプが起動時の応力によりはずれ、フランジとパイプのつなぎ手から水酸化カリウム水溶液(48%)が噴出し、水酸化カリウム水溶液を浴びて薬傷を負った。